

## ★ 今月の星もよう ★

7月中旬夜9時頃、春の星座は西に移動し、夏の星座が南の空に見え始めます。南の低い空に見える「さそり座」の心臓部分には、1等星のアンタレスが赤く輝き、そこから下にさそりの背から尻尾にあたるS字に並んだ星々は、2等星や3等星の明るい星なので、「さそり座」は全天でも明るい星座の一つです。「さそり座」の上には、大きな将棋の駒のような形をした「へびつかい座」があります。将棋の駒の頭にあたる位置には、この星座で最も明るい2等星のラスアルハゲが輝いています。その上の天頂付近には、「へびつかい座」と頭を寄せ合うような逆さ向きの巨人の姿をした「ヘルクレス座」があります。「ヘルクレス座」は、3等星以下の星々が並んだ暗めの星座ですが、東に「こと座」のベガ、西に「うしかい座」のアルクトゥールスの2つの1等星に挟まれた、全天で5番目に大きな星座なので、比較的に見つけやすい星座です。「ヘルクレス」はギリシア神話に登場する英雄で、「ヘラクレスの12の冒険」という物語の中で退治した、人食いライオンが「しし座」、ヒドラが「うみへび座」、お化けガニが「かに座」とされているように、他の星座とも深い関係を持っています。



## ★ ケンタウルス座のα星「αケンタウリ」

ケンタウルス座は初夏の星座ですが、日本では南の低い空までしか昇らないため、沖縄などの南の地域でしか全体を観測できません。太陽系に最も近い（地球から約4.4光年）恒星として知られるα星は、肉眼では1つの星に見えますが、実は、αA、αB、αCの3つの星からなる「αケンタウリ星系」と呼ばれる連星です。このうちαAとαBは互いの周りを回り合っている2重連星で、αAは太陽と比較すると、大きさが約1.1倍、明るさが約1.5倍。αBは太陽より少し小さく、太陽の約半分ほどの明るさです。αCは、その2重連星からはかなり離れてその周りを回っている、小さくて暗い星です。αAには「リギルケンタウルス」、αBは「トリマン」、αCは「プロキシマ・ケンタウリ」という、それぞれ別の名前も付けられています。



拡大図 Credit: Original MetaPost program by David Benbenick Program rendered as SVG by Qef, CC BY-SA 3.0, via Wikimedia Commons

星の名	αケンタウリABC
星座	ケンタウルス座
明るさ	-0.1等級
距離	4.4光年

## ★ 金星が最大光度、未明の月と木星

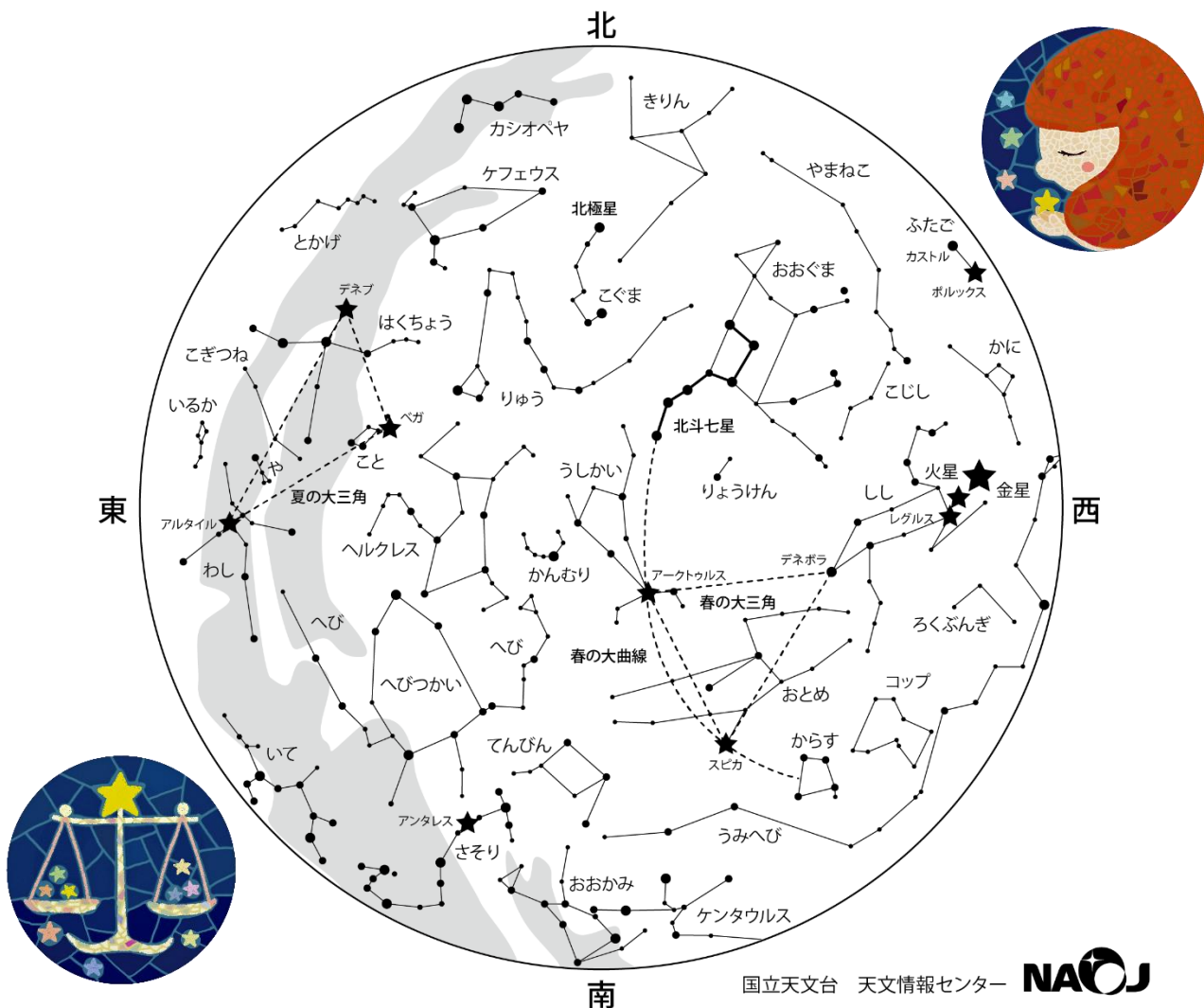
日の入り後の西の空で輝いていた「宵の明星」金星が、7月7日に、最も明るく見える最大光度を迎えます。-4.7等でキラキラと輝く金星を、是非観察してみましょう。また、7月に入ると、夜中に木星が昇ってきます。12日には、真夜中過ぎに月に続いて木星が昇り、夜明け前の東の空で、-2.2等の明るい木星と下弦を少し過ぎた月が並んで見えます。明るい木星と月がぴったり寄り添う光景を楽しんでみてください。

★ 7月のプラネタリウムの内容については、  
別刷りの「投影案内」をご覧ください ★★

★ プラネタリウムのお休み 7/3(月)、10(月)、18(火)、19(水)、24(月)、31(月)



# 7月上旬午後7時30分頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

## ★ 7月上旬の主な天文現象

1日(土) 月とアンタレスが接近	10日(月) 金星の近くに火星とレグルスが並ぶ、●下弦
3日(月) ○満月	
7日(金) 七夕、小暑、金星が最大光度(-4.7等)、月と土星が接近	12日(水) 明け方、月と木星が接近

## ★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 7/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 7月10日(月) [見やすさ◎]	21:30 西南西 ~ 21:36 北北東
◇ 7月11日(火) [見やすさ◎]	20:41 南西 ~ 20:47 北東
◇ 7月12日(水) [見やすさ◎]	19:51 南南西 ~ 19:58 東北東
◇ 7月14日(金) [見やすさ◎]	19:49 西南西 ~ 19:56 北東

豆知識：宇宙ステーション (ISS, CSS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。